

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3571500168		
法人名	有限会社 と一か		
事業所名	グループホーム と一か		
所在地	山口県周南市政所4丁目11番13号		
自己評価作成日	令和2年6月16日	評価結果市町受理日	令和2年10月26日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
聞き取り調査実施日	令和2年7月27日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

駅前を通り、商店街の立ち並ぶ大通りから小路を入ったところに、と一かがあります。小規模多機能とサービス高齢者住宅、有料老人ホーム、デイサービスセンターを併設し、地域に根差した施設を目指しています。「ありがとう」と笑顔をお返しし、利用者さん、ご家族、スタッフ皆が笑顔で暮らせる施設を目指して日々取り組んでいます。託児所もあり、子育て中のスタッフも働きやすい環境を整えています。職員の離職率が低い為、安定したケアが提供できています。コロナ禍においては面会や外部の方の来所の制限により、施設外の方と関わる事が出来ませんが、近隣の方がお花を届けてくださったり、温かい言葉かけをくださる等地域の方にもたくさん支えて頂きました。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

昼食と夕食の主菜は、併設施設の厨房で調理したものを利用され、朝食とご飯、汁物、副菜、デザートは事業所で調理されています。献立は栄養士が作成され、利用者の好みを取り入れられたり、無農薬の野菜や旬の野菜を利用して家庭的な食事づくりをしておられます。利用者は、野菜の下ごしらえや盛り付け、テーブル拭き、下膳、食器拭きなど、できることを職員と一緒にしておられ、刻みやミキサー食など利用者が食べやすい工夫されています。おやつづくりや季節の行事食、誕生日には利用者の好きな食べ物やケーキづくり、家族との外出など、食事が楽しめる湯尾に支援しておられます。毎月の事業所だよ理と一緒に、担当職員による手書きの手紙や利用者の写真、利用者の食事や日々のバイタル、体調を記載した状況報告書を交付しておられるなど、家族から意見や要望が出やすいように工夫されておられ、食事が摂れない利用者の家族から「好きなものを食べさせたい」との要望があり、利用者の好きな甘いものやパンを家族が持参されて食べさせておられるなど、ケアに関する要望にはその都度丁寧に対応されています。職員からの意見や提案は、毎月の職員会議や日々の業務の中で聞かれている。他、施設長や管理者が必要に応じて個人面談をされて聞いておられるなど、職員が意見や提案を出しやすく、働きやすい環境の整備に努めておられます。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
57 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員は、活き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「惜福・分福・植福」を理念とし、職員は「1日1回、利用者の方に笑顔になっていただく」と支援しています。理念については職員会議や日々の業務の中で触れることで、常に意識できるよう努めています。	法人の理念を事業所の理念とし、事業内に掲示している。職員は、職員会議や内部研修で話し合い共有しており、「一日一回利用者の方々に笑顔になっていただく」を目標に、日常業務で笑顔を絶やさず支援を心がけ、理念の実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	食材は地域の商店で仕入れており、昔から馴染みのある方は話しが広がります。避難訓練やと一か祭などの行事では地域の方の参加が自然になってきており、地域の中に溶け込んでいると感じます。散歩の際に近所の方が声をかけてくださいます。	今年は、コロナ禍の関係で地域の行事には参加できていないが、地元の川崎観音の接待には職員が参加している。年1回の事業所の文化祭「と一か祭」には、チラシを配布して地域住民に周知し、多くの人の参加を得ている。中学生の職場体験や福祉体験、介護専門学校の実習を受け入れている他、地域のボランティア(コーラス、フラダンス、日舞、オカリナ)や中学生(ブラスバンド)の来訪がある。近所の人が草取りに訪れたり、日々の散歩時に地域の人と挨拶を交わしたり、花の差し入れがあるなど、地域の一員として日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議や行事を通して地域の方々と認知症の方との垣根を取り除けるよう努めています。『ラン伴』に参加しています。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	1年に1度の自己評価の機会を自分や施設の介護を見直す機会として職員全員で取り組んでいます。また各自の意見から職員個々の考えを知ることができる機会ともなっています。	管理者は、評価の意義について文書を通して説明し、評価をするための書類を全職員に配布して、記入したものを、管理者がまとめている。自己評価の集計後は、職員会議で話し合いを行っている。今回の自己評価を通して、業務の振り返りをし、緊急時の対応や外部研修の参加について改めて考える機会となっている。職員がいきいきとして働く環境づくりへの課題に対して、施設長が職員一人ひとりから面接をして聞き取りをしているなど、評価を活かした改善に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を実施。会議での意見は職員会議を通じて全スタッフへ報告、活用しています。	会議は2カ月に1回開催しているが、この1年間は新型コロナの影響で、3月、5月、7月は会議が中止となる。会議では、事業所の行事や利用状況、ヒヤリハット・事故の報告、意見交換を実施している。会議には、地域から民生委員、元民生委員が出席し、他のグループホーム職員の出席がある。会議に合わせて、身体拘束適正化委員会を開催している。会議の参加者から書類の内容についての意見があり、書式を変更するなど、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進委員に市の担当者の方へ出席していただき、施設の運営にご理解いただくとともに、不明な点などはその都度担当の方へ質問するなどし、連絡を密に取っています。	市担当者とは、運営推進会議時の他、書類提出時に直接出向いたり、電話やメールで相談して助言を得ているなど協力関係を築いている。市主催の介護相談員研修に参加し、市が作成している「生き方ノート」について学んでいる。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時の他、電話で相談しているなど、連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	帰宅願望の強い方がおられ、お一人で外出される危険がある為、スタッフの目の届きにくい時間帯は門扉を施錠していますが、スタッフ間で声をかけあい、できるだけ開錠する時間を増やすように努めています。	「身体拘束適正化のための指針」を基に、職員は年2回、内部研修で身体拘束や高齢者虐待の防止について学び、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。身体拘束適正化委員会は運営推進会議に合わせて開催し、検討している。スピーチロックについては、職員同士で注意し合う他、気になる言動があれば、管理者から、第三者の視点で考えるよう職員に指導している。玄関の施錠については、スタッフが少ない場合には施錠をする時間もあるが、利用者が外に出たい時には、職員が施設の周辺を一緒に歩くなど、できる限り閉塞感を持たないよう配慮している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に1回以上虐待防止についての研修を行っています。具体的に虐待に当たる行為などを折りに触れ職員間で意識を統一するようにしています。常にボディチェック等を行い、万が一の場合には早急に対応できるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に1回研修の場を設けています。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所決定後社長・施設長・管理者のいずれかより説明、契約を行っています。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	3ヶ月に1回家族会を開催し、家族からのご意見、ご要望を伺っています。また面会時には積極的にコミュニケーションをとり、ご意見を頂いた際には責任者へ報告、敏速に対応できるよう努めています。	相談や苦情の受付体制、処理手続きを定め、契約時に家族に説明している。面会時や運営推進会議、年2回の家族会(コロナ禍で2回は中止)、電話等で、家族からの意見や要望を聞いている。毎月の事業所より送付時には、状況報告書(食事、バイタル、体調など)と利用者を担当する職員による手書きの手紙と写真を添えて家族に伝えているなど家族から意見や要望が出やすいように工夫している。月1回介護相談員が来訪し利用者の意見や要望を聞いている。食事が摂れない利用者の家族からは、「好きなものを食べさせたい」との要望があり、利用者の好きな甘いものやパンを家族が持参して食べさせているなど、ケアに関する要望にはその都度対応している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の活用。給料明細の受け取り時など社長、施設長から声を掛け意見の出しやすい雰囲気づくりに努めています。	管理者は、毎月の職員会議や日々の業務の中で職員の意見や提案を聞いている他、必要に応じて施設長が個人面談をして話を聞き、意見を言いやすい関係を築いている。勤務時間の変更や勤務日についての意見があり、希望休や有給などが取りやすい環境整備に取り組んでいる。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務年数によりスタッフへの勤務報奨などスタッフの努力を形にして賞賛することで意欲の向上を目指しています。希望休はできるだけ取れるよう配慮し、有休も極力取れるよう努めています。スタッフから「希望休や有休が取りやすい、急な勤務変更をスタッフ間で助け合って働ける環境」と意見有。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外研修について、勤務の都合でなかなか参加が出来ていないのが課題です。施設内研修を随時開催しスタッフの育成に努めています。	外部研修は、事業所内に案内を掲示しているなど、全職員に情報を伝え、参加の機会を提供している。受講後は報告書を作成し、職員会議で復命している。この1年は、管理者研修と新人研修に参加している。内部研修は、年間計画に沿って施設長が講師となり、毎月の職員会議の中で実施している。緊急時対応、高齢者虐待の防止、感染症予防対策、法令遵守、接遇、浮腫の原因と対策、身体拘束、入浴介助、理念と目標、認知症、看取りケア、非常災害対策について勉強している。新人職員は外部研修への参加の他、1ヶ月間先輩職員から業務の中で働きながら学べる様に支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会のブロック研修などへの参加も呼び掛けていますが、勤務の都合で参加できないことが多く、積極的に参加できるよう取り組んでいく必要があると感じています。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始にあたっては必ず面会を行い、ご利用者、ご家族より意見を伺い、情報収集に努めています。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始にあたっては必ず面会を行い、ご利用者、ご本人より意見を伺い、情報収集に努めています。入所前の担当ケアマネからの情報なども参考にしています。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まだ入所段階にない方についてはケアマネと相談しサービス提供を支援しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「お世話になってばかりで申し訳ない」と話される利用者の方には「お互いさま」であることを伝えるような言葉かけをしています。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月お便りや状況報告書を郵送、また面会時には記録に積極的に目を通していただき、ご利用者の方を共に支えていただけるよう支援しています。また盆正月はできるだけ外出・外泊を依頼していますが、近年では外泊される方は少なくなりましたが、外出は積極的にして下さっています。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在入所されている方の在籍年数が増えていき、と一かが馴染みの場所となってきていることから、最期をと一かで迎えたいと希望される方がほとんどです。先日家族の方から「馴染みのスタッフさんの元で最期を迎えたい」と希望があり看取りケアをさせていただきました。	家族や親戚の人、散髪屋の来訪がある他、絵手紙や年賀状、電話での交流を支援している。家族の協力を得て、他施設へ入所している妻への面会、外食、外出、買物、美容院の利用、法事へ出席など、これまでの馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや作業などを通じて利用者同士が関わられるよう支援したり、トラブルが懸念される際にはスタッフが仲介。孤立されている方には積極的に声をかけ、他利用者の方と良好な関係が築けるよう支援しています。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院による退所の際にはお見舞いに伺ったり、退所後もと一かの行事をご案内して、関係が継続できるよう努めています。おかげさまで退去後も家族の方が足を運んでくださいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人からの何気ない意見なども聞き逃さず、知りえた情報は24時間生活シートに記入し、担当者会議においてスタッフ間で共有しケアに活かしています。	入居時のセンター方式のアセスメントシートを活用している他、日々の関わりの中での利用者の行動や言葉を「24時間生活変化シート」に記録して利用者一人ひとりの思いや意向を把握している。利用者からの把握が困難な場合は、家族から聞き取り、職員間で話し合い、利用者本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面接にて情報を収集し、フェースシートを作成、スタッフ間で共有しています。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の日課はありますが、本人のリズムを尊重しケアしています。ご本人の心身状態をスタッフ間で申し送り、残存機能の維持に努めています。また最近では高齢化、身体状況の低下も著明であることも考慮し、無理のないよう過ごしていただいています。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月担当者会議を開催、計画の変更の必要な方について検討しています。協力病院の医師、家族へは随時報告、意見を伺い計画に反映するよう努めています。	計画作成担当者、利用者の担当職員を中心に、担当者会議を毎月1回開催し、本人や家族の意向、主治医の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。3か月毎にモニタリングを実施し、1年毎に見直しを行っている他、利用者の状態に変化があるときはその都度見直しをして、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	健康管理表を作成し、食事摂取量や排泄・入浴状況など個別に記載しています。また24時間生活シートを活用し、何気ない言葉も記録してケアに活かせるよう努めています。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、家族の方のニーズにはできるだけ対応できるように取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	推進委員には市の職員、民生委員の参加もあり、会議の際に情報交換を行っています。また年2回の避難訓練の際には消防署の協力を頂いています。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医についてはご利用者、ご家族の意思を尊重しています。受診の際には基本は家族へ依頼、必要に応じて送迎など支援しています。緊急時には協力病院へ連絡、受診、往診とご協力いただいています。	協力医療機関の他、本人や家族が希望する医療機関をかかりつけ医としている。協力医療機関からは月1回の往診があり、その他のかかりつけ医には月1回受診をしている。受診は、他科受診を含めて家族の協力を得て支援をしている。受診時には「介護と医療の情報連携連絡票」を使用して医療連携に努めている。歯科受診は希望によって往診がある。夜間や緊急時は、施設長を中心に対応し、協力医療機関と連携し、指示を仰ぎ、必要に応じ救急車で対応するなど、適切な医療が受けられるよう支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	令和2年6月より訪問看護ステーションと提携し、週に1回の訪問により利用者の方の体調管理や医師との連絡調整を行っています。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的にご家族へ連絡をし近況を伺い、できるだけお見舞いに伺い状況把握に努めています。入院時に身体機能、認知度などに著明な変化の低下が見られたときには施設での様子などを説明し、退院がスムーズにできるよう配慮しています		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に看取りケアについての説明を行い終末期への思いを伺っています。入所後、看取りへの移行が予測される方については医師、家族を交え担当者会議を開催、家族ご本人の意向を踏まえ方針を決めています。	重度化や終末期の対応については、重度化した場合の指針「看取りに関する指針」に基づき、契約時に事業所ですることができることを家族に説明している。実際に重度化した場合は、利用者の状況の変化に応じて医師の意見を聞き、家族と話し合い方針を決め、入院や他施設への移設も含めて職員で共有してチームで支援に取り組んでいる。この1年で1名の看取りを行った。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故報告書、ヒヤリハットを活用し、職員会議において検討、再発防止に努めています。特に服薬に関しては間違えることの無いよう、服薬介助時の声出し確認、複数人でのチェックなど気をつけています。	事故が発生した時には、「介護事故・ヒヤリハット報告書」に記載し、その場にいた職員で対応について話し合い、責任者へ報告し、「ケア日誌」にも記入して職員間で共有している。その後は職員会議で再検討し再発防止に努めている。報告書は何時でも閲覧できる。緊急時の対応については、内部研修で学んでいるが、全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	全職員での応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施しています。火災時には近隣住民の方にご協力をいただいています。地震、水害への対策についてはマニュアルを作成し、昨年訓練を実施しましたがスタッフの中には緊急時の不安を抱えているスタッフが多く、より実用的なマニュアルを作成し、研修を実施するようにしています。	年2回(内1回は消防署の協力を得て)、併設事業所と合同で、昼夜を想定した避難訓練、消火訓練、通報訓練を実施しており、地区の住民11名が参加し、避難誘導や見守りを行っている。地震や水害への対策については、マニュアルを基に内部研修を行っており、避難できる方法を全職員が身につけると共に地域との協力体制を築いている。今年度、実際に、水害による避難指示の通報があり、二日間程、併設の小規模多機能型居宅事業所へ避難するという体験をしている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者の方を人生の先輩と敬い、接するように心掛けていますが、馴染みの関係となることでつい親しみをこめた口調となることがあり、注意が必要な場合はスタッフ間で注意し合える環境作りを目指しています。	「プライバシー保護の取り扱いマニュアル」を整備し、職員は、内部研修(接遇について)を通して理解し、利用者の自尊心を傷つけず、プライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。気になる場合は、職員間で話し合い、理念に沿ったケアができるよう支援している。利用者の記録等書類は鍵のかかる場所へ保管するなど留意している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者個々とのコミュニケーションの特徴をスタッフ間で共有し、日々の介護に活かせるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフ側の都合を優先してしまう場面が多々ありますが、できるだけお一人おひとりのペースを大切にしよう心掛けています。			
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月1回散髪の方が来られ、好みにあった髪型にカットしてもらっています。女性の方には化粧を楽しんでいただいたり、男性の方はひげが伸びっぱなしにならないように声掛けをさせていただいています。			
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいものやお好きなものを伺って誕生日などを活用して提供するようにしています。食事はスタッフも一緒にテーブルを囲み、お話をしながら和やかに食事をしていただけのように努めています。下膳やテーブル拭きなどできる方にはお手伝いをお願いしています。	昼食と夕食の主菜一品は、併設施設の厨房で調理したものを利用し、朝食とご飯、汁物、副菜、デザートは事業所で調理している。献立は、栄養士が作成している。利用者の好みを取り入れたり、社長がつくった無農薬の野菜や旬の野菜を利用して家庭的な食事づくりをしている。利用者はゴマすり、豆やもやしのひげ取りなどの野菜の下ごしらえ、盛り付け、テーブル拭き、下膳、食器拭きなど、できることを職員と一緒にしている。利用者の状態に合わせて、刻みやミキサー食にするなど利用者が食べやすい工夫をしている。利用者と職員は、同じ食卓を囲み、会話を楽しみながら、同じものを食べている。おやつづくり(おはぎ、ぜんざい、かき氷、ホットケーキ、桜餅、バレンタインのチョコレート)、季節の行事食(おせち、きりたんぼ、ひな祭りの寿司、七夕のソーメン、土用のウナギ、クリスマスのケーキ、年越しそばなど)、誕生日にはちらし寿司や利用者の好きな食べ物やケーキづくり、家族との外食など、食事を楽しめるように支援している。		
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下困難な方が増えてきているので、刻み食、お粥、ミキサー食などそれぞれにあった形態で食事を提供しています。水分摂取には特に気をつけ、必要な方については水分量のチェックを行っています。献立は管理栄養士が作成。月に2回体重測定を行い体重の増減のチェックをしています。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施し、入れ歯を使用されている方については夜は洗浄剤を使用し清潔に努めていますが年々口腔ケアを行うことが困難な方が増えているのか現状であり、課題です。 必要があれば随時歯科受診を支援しています。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	オムツは極力使用せず、お一人おひとりの排泄パターンに沿ってトイレへ誘導。最近では失禁をされる方が多く、ほぼ全員の方がトイレへの声掛けを必要とされています。	職員は、「24時間生活変化シート」を活用し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握して、声かけや誘導をし、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給、冷たい牛乳やオリゴ糖の使用、腹部マッサージなどできるだけ薬に頼らない排便を目指していますが便秘の方が多いのが現状です。長期間排便のない方については協力医、看護師へ随時連絡し、指示を仰いでいます。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的には毎日の入浴ですが、個々の状態に応じて対応しています。できるだけご希望に添えるよう配慮していますが、介助の有無や、水虫等の疾患のためこちらで順番を決めさせていただく場合もあります。	入浴は毎日、15時から18時まで可能で、利用者の希望や体調に合わせて入浴を楽しめるよう支援している。利用者の状態によっては、清拭やシャワー浴、足浴を行っている。入浴をしたくない人には、時間の変更や職員の交代など声掛けをしながら本人のペースに合わせた対応をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はできるだけ起きていただき、夜間十分な睡眠がとれるよう努めていますが、ご利用者の高齢化に伴い日中横になることを希望される方もおられますので、その際には夜間の睡眠に影響が無い程度で休んでいただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬表を作成し活用しています。副作用については特に注意が必要な場合は職員会議の席などでスタッフ全員に周知できるよう努めています。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ドリルや手伝いなどの役割をお願いするなど、張り合いを持っていただけるよう支援しています。またレクリエーションや季節ごとの行事などで季節感を感じていただくよう努めています。年に1回のとーか祭ではユニット毎や個人での出し物をステージで発表します。	テレビ(時代劇、歌番組)やビデオ(歌番組)の視聴、脳トレ(計算ドリル、漢字ドリル、ことわざ)、福笑い、貼り絵、ぬり絵、習字(書初め)、手工芸、季節の作品づくり、絵馬づくり、風船バレー、輪投げ、歌を歌う、踊り(炭坑節)、音楽療法(楽器演奏)、ラジオ体操、口腔体操、お元気体操、モップかけ、タオル干し、洗濯物干し、洗濯物たたみ、洗濯物の収納、草取り、季節の行事(節分、ひなまつり、スイカ割、お彼岸)など、楽しみごとや活躍できる場面をつくり、利用者がいきいきと過ごせるよう支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事で遠くへお出掛けや外食に行くときなどはご家族にもできるだけご参加いただいています。又歩行困難な方でも車イスを使用し散歩へ出るなど、外気にできるだけ触れていただくよう支援しています。	近隣への散歩、日光浴、外気浴、スーパーへの買物、季節の花見(梅、河津桜、芝桜、紫陽花、菖蒲、藤の花、コスモス、紅葉)、運動会や鯉のぼりやイルミネーションの見学、家族と協力しての外出などの支援をしている。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で管理されている方は少なくほとんどお預かりしています。金銭出納表にて管理し、定期的にご家族の方に確認いただいています。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	母の日にはご家族にカードを書いていたいただき、皆様大変喜ばれています。家族の方からの電話の取次ぎやご本人が希望されたときに電話をかけるなど出来る限り支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生花・カレンダー・壁面を季節感のある作品で飾ったりしています。清掃には気を配り、ご利用者、来所者が不快なおいなど感じないように努めています。室温、湿度に気を配り、窓の開閉、エアコンなどを使用し調整しています。	玄関には季節の花を飾り、リビングの壁には季節に合わせた手工芸品などの飾りをして、利用者が過ごしやすく、季節を感じることのできる工夫をしている。テーブルやイス、テレビ、ソファを配置し、利用者が思い思いの場所でくつろげるように居場所をつくっている。対面キッチンからは、調理の音や匂いがして生活感を感じることができる。快適な室温や湿度、換気にも配慮し心地よく過ごせる工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーや和室、廊下の椅子、玄関のテーブルと椅子などゆっくりと過ごしていただく場所の工夫をしています。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や思い出のあるものを居室に置いて頂いています	机や椅子、ソファ、テレビ、衣装ラック、ぬいぐるみ、人形、日本人形など、使い慣れたものを持ち込み、家族の写真、カレンダー、誕生祝の色紙、運動会の賞状、利用者の作品を飾って、居心地良く過ごせるよう工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	下駄箱に名前・たんすには何がしまっているか書くことで、できることはできるだけご自分でしていただくよう支援しています。		

## 2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム とーか

作成日: 令和 2 年 10 月 26 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	研修については年間計画を作成し、計画に沿って研修を行っているが、勤務の都合で研修に参加できなかったスタッフに対しては文書の回覧で行っているのが現状である	全職員が応急手当や緊急時の対応できるよう研修・訓練を通して身につける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続きより実践的な研修の実施</li> <li>・研修に参加できなかったスタッフへのフォロー</li> </ul>	1年
2	4	自己評価を実施するにあたり、勤務年数の長いスタッフが多いことから「昨年同様」で済ませている様子が見受けられる	自己評価、及び外部評価を最大限に活用し、日々のケアにより活かしていく。	研修等を実施する際、自己評価の項目も具体的に説明し、日々のケアの中で意識できるように取り組んでいく	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。